

いのちと地域を守る

防災・減災のページ

鎮魂込め

津波の高さを示した碑、津波の記憶を風化させまいと、市内の至る所に設置されている。ロウソクを模した形に、犠牲者への鎮魂の思いを込めた＝バンダアチェ市内



「足から足を0000と離れ、伝える」災害犠牲者、被災者の記憶を風化させまいと、Tsunami Memorial Candle Projectという、ろうそくを模した形に、犠牲者への鎮魂の思いを込めた＝バンダアチェ市内

震災の風化と闘うインドネシア 悲劇を忘れない

後世へ



奇跡的に津波に耐えたイスラム教の寺院で、放課後を過ごす子どもたち。災害の記憶をどう後世に引き継いでいくか、課題は重く大きい＝バンダアチェ市内

命の船

津波で海から何も流れられ、民家の屋根に乗り上げた漁船。逃げ遅れた59人の住民が乗り込み、助かったという。見学用にスロープとやぐらが設けられ、国内外から訪れる人が絶えない＝バンダアチェ市内



破壊力

小さな漁村を流れる川の河口で、津波に壊された当村の残す構造物。巨大津波の破壊力を物語る＝バンダアチェ市ムラクサ地区

安らかに

津波で犠牲となった1万5000人が土葬された共同墓地。イスラム教のコーランを刻んだ碑に囲まれている。小さな校庭ほどの土地に、多くの亡き方を一度に葬るしかなかったのは、気温が30度を超えて悪化した衛生事情があったという＝バンダアチェ市内



苦悩訴え

津波博物館には、被災当時の写真を展示するコーナーがある。暗い空間に次々と写真が映し出され、見る者に住民の悲しみや苦悩を訴える＝バンダアチェ市内



手作り

住民手作りの津波モニュメント。村を襲った津波の高さに大敗したトラックを並べ、「悲劇のTSUNAMI」と記した＝インドネシア・アチェアサル県

